

多年生広葉雑草に困っていませんか？

セイヨウタンポポ



シロツメクサ



カタバミ



オオバコ



ブタナ



多年生雑草は、1年以上生育する植物で、地下部などに栄養繁殖体を形成し、生命力に優れます。一度定着すると防除が難しくなってしまうこともしばしば。

多年生広葉雑草防除の救世主



デスティニー®WDGは難防除の多年生広葉雑草もしっかり枯らし、再生が少ないスルホニルウレア(SU)系除草剤です。

デスティニー®WDGの特長

幅広い除草スペクトラム

- ・タンポポ、オオアレチノギク、ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ、ハハコグサ、ヒメムカシヨモギ、ブタナなどの幅広いキク科雑草に。
- ・オオイヌノフグリなどゴマノハグサ科雑草に。
- ・シロツメクサ、カラスノエンドウなどマメ科雑草に。
- ・その他、カタバミ科、タデ科、ナデシコ科、アブラナ科、オオバコなど。

幅広い使用適期幅

雑草発生前から雑草発生初期(3葉期まで)と使用できる時期が広いので余裕を持った防除計画を組むことができます。

使いやすい製剤と包装

作業時の粉立ちが少なく水に溶けやすい製剤です。包装は100gなので、1000リットルタンクに一袋分投入することで5000㎡散布することができます。(㎡当たり0.02gの製剤を水量200mlで散布した場合)

低い薬量で長い残効性

㎡当りの使用量が0.015から0.02g(10アール当たり15gから20g)と低く、秋散布で120日以上長い期間広葉雑草の発生を抑えます。

デスティニー®WDGの適用雑草および主な使用方法

作物名	日本芝	樹木等	
適用場所	—	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	
適用雑草名	1年生及び多年生広葉雑草	1年生及び多年生広葉雑草	クズ
使用時期	雑草発生前～発生初期	雑草生育期	
使用量	薬量	15-20g/10a	40-80g/10a 60-120g/10a
	希釈水量	200-300L/10a	100-200L/10a
本剤の使用回数	2回以内	2回以内	
使用方法	全面散布	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	
ヨードスルホンメチルナトリウム塩を含む農薬の総使用回数	2回以内	2回以内	

推奨薬量: 0.02g/㎡

デスティニー®WDGの効果

セイヨウタンポポに対する効果

デスティニーWDGは、キク科雑草の中でも難防除雑草であるセイヨウタンポポに対して、安定した茎葉処理効果を示します。



セイヨウタンポポに対する茎葉処理効果[処理98日後]

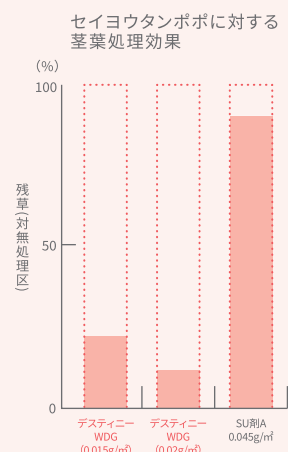
処理日:2008年1月10日 調査日:2008年4月17日(関東Aゴルフ場)

無処理区において開花が見られるのに対して、デスティニーWDG処理区では開花はほとんど見られず、多くは枯死に至ります。効果の出にくい冬期(1月)の処理でさえも、翌春(処理98日後)まで発生は見られません。

セイヨウタンポポへの殺草力に自信があります

デスティニーWDGはセイヨウタンポポの茎葉処理において、他のSU剤に比べて高い殺草効果を示します。

また、0.02g/m²処理と0.015g/m²処理を比較した場合は、前者において、より安定した効果を示すといえます。



推奨薬量:0.02g/m²

シロツメクサに対する効果



シロツメクサに対する茎葉処理効果[処理44日後]

処理日:2007年5月16日(東北Aゴルフ場)

オオバコに対する効果



オオバコに対する茎葉処理効果[処理30日後]

処理日:2007年6月27日(4-7葉期)(東北Aゴルフ場)

デスティニー®WDGを安全に使っていただくためのポイント ～西洋芝に対する薬害について～

デスティニーWDGは、西洋芝には使うことができませんが、特にライグラスに対して強い薬害を示します。飛散した場合、生育盛期のライグラスであっても枯死させる恐れがあります。周辺にライグラスがある場合は飛散しないように十分に注意してご使用ください。秋期にライグラスをオーバーシードする予定のティーグラウンドなどでも十分に注意をしてください。

株化したライグラスに散布を行い、その影響を確認しました[処理2週間後]



処理前



デスティニーWDG(0.01g/m²)

デスティニー®WDGの上手な使い方

- ライグラスに対して薬害が生じやすいので、飛散しないように注意して散布してください。
- ライグラスをオーバーシードする予定地の周辺で、デスティニーWDGを散布する場合、ドリフトの影響を鑑みて、播種3~4週間前までに散布を終えてください。